北海道大学大学院文学研究科応用倫理・応用哲学研究教育センター主催　公開シンポジウム

「LGBT」はどうつながってきたのか？

講　演

鈴木　賢
LGBT＋相互の連帯と分断

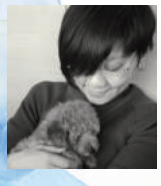
清水晶子
つながりへの希求は
何を求めてきたのか

石田　仁
安全な自由―ハッテン場に
夢を託した時代における

2018年
10月8日　月・祝
さっぽろレインボープライド翌日
13:30～17:00（開場 13:00）
参加費 無料（事前申込不要　定員280名）

北海道大学
文系共同講義棟（軍艦講堂）
2階8番教室

鈴木　賢（すずき　けん）
明治大学法学部教授、北海道大学名誉教授。研究分野は、中国法、台湾法、アジア法、比較法。研究テーマは、華人社会における民主化と法、非西欧社会における法的世界の成立、多元的な家族と法の対応、台湾における同性婚法制化など。主要著書に『現代中国法入門』第７版（共著、有斐閣）、論文多数。札幌での「レインボーマーチ札幌」に開始当初から関わり、札幌市パートナーシップ宣誓制度施行でも中心的役割を果たす。



清水　晶子（しみず　あきこ）
東京大学大学院総合文化研究科教授。専門はフェミニズム／クィア理論で、広くいえば身体という経験をめぐる文化政治が研究対象。著書に Lying Bodies: Survival and Subversion in the Field of Vision (Peter Lang)、共著に『愛の技法―クィア・リーディングとは何か』(中央大学出版会)など。雑誌『現代思想』『世界』の LGBT 関係特集等への寄稿多数。

石田　仁（いしだ　ひとし）
中央大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（社会学）。現在、明治学院大学研究員、成蹊大学他非常勤講師。研究テーマは、日本の男性同性愛の戦後史。『性欲の研究―東京のエロ地理編』（平凡社）にハッテン場の歴史論文（「いわゆる淫乱旅館について」）を執筆。著書に『LGBT』（ナツメ社、近刊）、共著に『図解雑学ジェンダー』（ナツメ社）、『セクシュアリティの戦後史』（京都大学学術出版会）など。

司会
近藤智彦（北海道大学大学院文学研究科准教授、応用倫理・応用哲学研究教育センター事務局長）
斉藤巧弥（さっぽろレインボープライド実行委員、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程）
満島てる子（さっぽろレインボープライド実行委員、７丁目のパウダールーム店長）

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY　CAEP HOKKAIDO UNIVERSITY

お問い合わせ：Email: caep@let.hokudai.ac.jp Tel: 011-706-4088（平日11:00-17:00）
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/　Twitter: @caep_hu

「LGBT」はどうつながってきたのか？

本シンポジウムは、「LGBT」のつながりの歴史を振り返った上で、今後の展望を議論することを目指すものです。ここで言う「つながり」とは、セクシュアル・マイノリティの権利運動を当然視野に収めながらも、それにとどまらない多様なつながりを含み込むものとして捉えています。そうした「つながり」（と分断）はどのような変遷を辿ってきたのでしょうか、その背後には何がはたらいてきたのでしょうか。各分野の活動や研究をリードしてきた方々の講演を出発点として、率直な意見交換をする場にしたいと考えています。

鈴木　賢「LGBT＋相互の連帯と分断」

近年、日本でもようやくLGBT＋にかかわる制度化が起動し始め、同性婚の法制化も議論の俎上に上っています。一般にマイノリティの権利獲得にとって、当事者およびその支援者がいかに内部の分断を拒否し、政治を動かす力を形成するかが課題となります。しかし、LGBT＋の運動内部にはすでに深刻な分断の兆しが現れています。例えば、L、G、B、T相互間、リブ派VS.アンチリブ派、資本派VS.人権派、右派VS.左派、草の根VS.キラキラ系などです。本報告では分断の誘惑をいかに拒否して、効果的に運動を前進させるかについて考えてみたいと思います。

清水　晶子「つながりへの希求は何を求めてきたのか」

非規範的な性的指向や性自認は、遺伝的に継承されるものでも必ず外見から判別可能なわけでもありません。同性愛／トランス嫌悪的な社会では、そもそもそれらの性的指向や性自認の存在を公言することすら難しいこともしばしばでした。このような条件のもとでの「LGBTのつながり」は意図的に時に強引に希求され見出されるもので、その点で、血族や地域社会などのいわば自明とされてきた「つながり」とはほとんど対立的な側面すら有していました。性の政治と「つながり」とをめぐるアンビヴァレンスを概観します。

石田　仁「安全な自由――ハッテン場に夢を託した時代における」

「ハッテン場」（匿名的な性交渉のための場）を題材にとり、同性愛の男性同士の「分断」と「つながり」を振り返ります。出会いを求める男性たちは、公共空間のハッテン場でどのような経験をしていたのか、登場した専用のハッテン場にはどんな希望を託していたのか、豊富な史料から読み解きます。また、史料そのものは語りませんが、それらには社会のジェンダー構造を考えるヒントもあるはずです。

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY　CAEP HOKKAIDO UNIVERSITY
お問い合わせ：Email: caep@let.hokudai.ac.jp　Tel: 011-706-4088（平日 11:00-17:00）
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/　Twitter: @caep_hu